2. CSR 方針 2　環境

環境負荷軽減の重要性を理解し、積極的に環境保全・向上活動に取り組みます。

2-1. 基本的な考え方

・環境理念

長谷川香料株式会社はかけがえのない地球を未来に引き継ぐことが人類共通の重要課題であることを認識し、総合香料メーカーとしての全ての事業活動において地球環境保全に配慮して行動します。

・基本方針

当社では、「環境保全」と同様に、「保安防災」「労働安全衛生」「化学品安全」についても企業の重要なテーマとして「環境安全活動方針」に盛り込み、取り組みを行っています。

環境安全活動方針

環境保全
1 省エネルギーの推進
2 省資源、廃棄物の有効利用の推進
3 臭気対策、環境汚染物質の排出低減
4 環境管理体制の充実
5 グリーン購入の推進

保安防災
1 危険物安全対策の推進
2 防災安全対策の推進

労働安全衛生
1 労働安全対策の推進
2 労働衛生活動の推進
3 労働環境の改善

化学品安全
1 化学物質管理体制の整備
2 化学品安全対策の推進

・ステークホルダーとの関係性

「長谷川香料企業行動規範」に準じ、全てのステークホルダーとの揺るぎない信頼関係の確保に向けて努力します。

(1)顧客向けの情報開示

CSR 調達セルフ・アセスメント・ツール（グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン）、Sedex、EcoVadis、CDP 等のプラットフォームを通じた情報開示を行います。

(2)従業員向け環境教育

環境教育を多面的に実施して、従業員の環境意識の向上に努めています。

Copyright© T.HASEGAWA CO., LTD. All rights reserved

・社内イントラネットによる教育、情報提供

環境関連ページを社内イントラネット上に掲載し、「環境報告書」をはじめ環境情報を提供しています。

・社内環境セミナー

各事業所の環境安全委員会、教育委員会等が企画して、社内あるいは社外から講師を招いて環境問題に関するセミナー・勉強会を開催しています。

・社外環境セミナー

環境安全業務に携わる者は、専門的セミナー・講演会・展示会などに参加して、環境関連知識のレベルアップに努めています。

・新人教育

新入社員に対する教育を各事業所において実施しています。また、従業員に対する社内セミナーにおいて、環境・安全に関する研修を実施しています。

・環境マネジメントシステム（ISO14001）による環境教育

深谷工場、板倉工場及び総合研究所では、ISO14001 環境マネジメントシステムの中で教育・訓練を計画的に実施しています。また、各職場では「ISO14001 掲示板」を設置して環境方針、環境推進ポスター、その他環境関連情報を掲示し、環境保全の促進に努めています。

(3)株主への情報開示

2020 年までは毎年環境報告書を発行しておりましたが、今後はサステナビリティレポート「2. CSR 方針 2 環境」パートにて報告していきます。また、サステナビリティレポートは当社 HP にも開示しています。

・貢献する SDGs

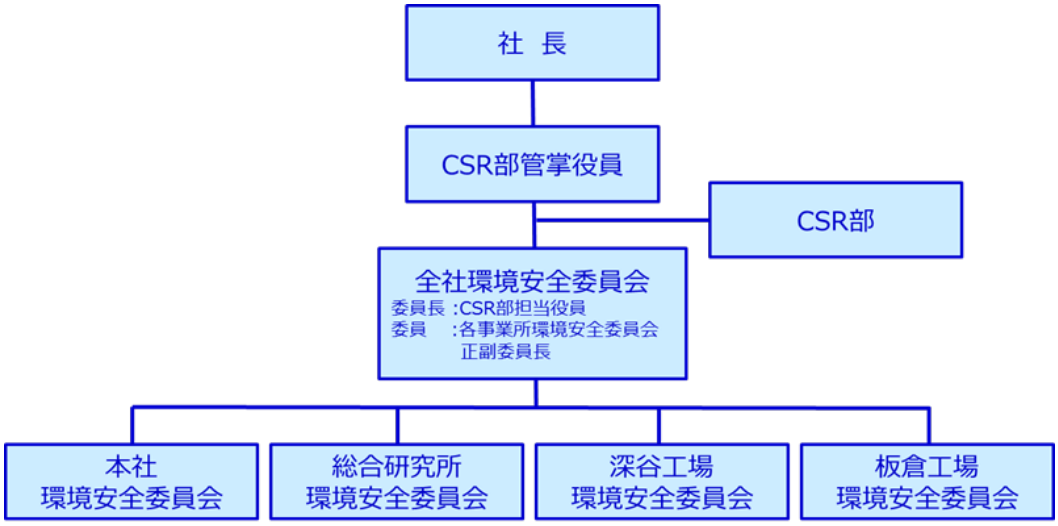
2-2. 推進体制・ガバナンス

・推進体制

「環境安全管理規程」に基づき環境安全管理体制を構築し、推進しています。

また、環境マネジメントシステムの国際規格 ISO14001 の認証を深谷工場・板倉工場・総合研究所で取得し、製造部門と研究部門が一体となって運用しています。

Copyright© T.HASEGAWA CO., LTD. All rights reserved



(1)全社環境安全委員会

①代表取締役社長が任命する CSR 部担当役員を委員長とする委員会で、環境保全及び安全対策に関する全社的な方針、活動計画などを審議・決定します。

②各事業所の環境安全に関する活動計画・活動実績等の報告を受け、全社的な調整を行います。

③環境安全監査（環境保全 / 保安防災 / 労働安全衛生）の監査員を選任し、各事業所で毎年監査を実施します。

(2)各事業所環境安全委員会

①本社、総合研究所、深谷工場及び板倉工場に、それぞれ環境安全委員会を設置し、事業所長等を委員長として、毎月開催しています。

②それぞれが具体的な活動方針・目標を定めて、環境及び安全に関する活動を推進しています。

(3)CSR 部

①CSR・SDGs に関する基本施策の立案・推進を行っています。

②長谷川香料の環境安全活動について総括管理を行っています。

③全社環境安全委員会及び環境安全監査等の事務局として計画・運営しています。

④サステナビリティレポートや当社 HP 等を通じて関連情報を開示しています。

(4)ISO14001

2001 年に深谷工場及び板倉工場において、(財)日本規格協会より環境マネジメントシステム ISO14001 の認証を取得し、活動してきました。なお、現在の認証機関は DNV　ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社となっています。製造部門は、当社の中でも特に環境負荷の大きい部門ですが、両工場が歩調を合わせて、ISO14001 のシステムに基づき、PDCA サイクルを回して継続的改善に取り組んでいます。また、2012 年 6 月には、総合研究所を認証登録範囲に加え、研究開発段階から環境負荷軽減への取り組みを強化しています。

Copyright© T.HASEGAWA CO., LTD. All rights reserved

「ISO14001 環境方針」

長谷川香料株式会社深谷事業所及び総合研究所は食品香料、香粧品香料、合成香料、食品添加物、食品及び香粧品素材などの生産・研究開発を行う総合香料メーカーとして環境との調和の重要性を認識し、社会に信頼される企業を目指します。この実現のため、以下の方針に基づき環境に関する活動を実施していきます。

①省資源、省エネルギーを推進し、地球環境の保護に努めます。

②廃棄物の削減及びリサイクルを推進します。

③適用サイト及び周辺の環境管理を強化し、汚染の予防に努め、地域社会との共生を図ります。

④環境に関する大気、水質等の法律、協定を順守します。

⑤内部監査等を行い、環境マネジメントシステムの継続的な改善を図ります。

⑥環境教育を行い、全従業員の環境に関する意識の向上に努めます。

・ガバナンス

各事業所において環境安全監査を毎年実施しています。その結果を戦略会議で報告することを環境安全管理規程で定めています。また、ISO14001 の認証を取得している製造部門・研究部門では、外部審査機関による定期維持監査を受ける一方、部門内においても内部環境監査を実施しています。これらの定期的な監査により環境管理システムが有効に機能しているかを確認し、改善を図っています。

全社環境安全委員会による環境安全監査

1997 年から全社環境安全委員会が、環境保全と安全対策に関する監査を実施してきました。

2008 年以降、監査内容を「環境保全監査」、「保安防災監査」及び「労働安全衛生監査」に区分し、きめ細かくチェックする仕組みに変更しました。監査に際しては、それぞれ専門的な監査員を選任し、監査員は環境に関わる法令の遵守、活動の状況、関連施設管理状況等をチェックし、改善すべき事項には改善指摘書を発行します。これに対し被監査事業所では、指摘事項に対する改善計画を作成し、全社環境安全委員会に報告した上で改善を実施していきます。2020 年は 7 月に COVID-19 対応を行いつつ、各事業所において各監査を実施しました。

ISO14001 定期維持審査と内部環境監査

環境マネジメントシステム ISO14001 の認証を取得している深谷工場・板倉工場・総合研究所では、外部審査機関 DNV　ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社の定期維持審査を受け、システムの定着・運用を確認しています。また、環境マニュアルで規定され登録承認された内部環境監査員により、全部署の内部環境監査を実施しています。指摘や改善推奨事項が示された場合には迅速に是正し、継続的な改善を図っています。

Copyright© T.HASEGAWA CO., LTD. All rights reserved

2-3. リスク・機会と戦略・対応

・リスク

(1)法令・規制遵守徹底の不備による行政処分や訴訟

(2)地域社会の環境保全の阻害

(3)社会的評価の低下

(4)顧客からの取引停止等

(5)気候変動による原材料の不作

(6)災害等によるサプライチェーンの寸断

・機会

(1)気候変動を機とした代替原料の需要増加

(2)新規顧客の獲得

(3)社会的認知度の向上

(4)ESG 投資家の評価向上

・戦略

・法令遵守やリスクへの対応を徹底します。

・CSR 方針に則り、環境課題を解決し、成長戦略へとつなげていきます。

・リスクへの対応

・代表取締役社長を含む管掌役員からなる会議において、設備投資を伴うボイラーの燃料転換の経済性の証明として、過去 15 年の CO_2 排出量の削減、及び削減率が日本の目標（2030 年度に 2013 年度比で 26%減）を上回っていることを議論。その結果パリ協定を踏まえた上での気候変動に対する取り組み意義の重要性を再認識

・環境安全監査を年 1 回実施するなど、チェック体制を強化。PDCA サイクルを回し、継続的に改善運動を展開

・地球温暖化対策の徹底（環境安全委員会活動を通じたエネルギー消費量・CO_2 の削減、原料等の省資源、廃棄物の堆肥化を通じた有効利用）

・CSR 調達セルフ・アセスメント・ツール（グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン）、Sedex、EcoVadis、CDP 等のプラットフォームに加盟、情報開示の実施と透明性の維持

・機会への対応

・情報開示、トレーサビリティーの担保による顧客との取引拡大

・イノベーションの加速、SDGs の目標の実現に向けた新製品の開発・提案、販売

・炭酸エンハンサー®　炭酸感増強香料、天然光劣化防止剤等の使用で、ペットボトルの薄肉化や軽量化により容器原材料の省資源化に貢献

Copyright© T.HASEGAWA CO., LTD. All rights reserved

2-4. 2020 年度の主な取り組み

(1)環境会計

環境保全活動を効率的かつ効果的に進めていくために、環境省の「環境会計ガイドライン」を参考にし、環境会計を実施しました。

対象期間：2019年10月１日～2020年9月30日　　（単位：千円）

環境保全コスト

分類	主な取り組みの内容	投資額	費用額
(1)事業エリア内コスト		110,564	546,656
1　公害防止コスト	排水処理設備改修 環境施設(排水、大気、臭気等)の適正運転	31,001	235,401
2　地球環境保全コスト	省エネルギー対策	79,563	77,092
3　資源循環コスト	廃棄物の有効利用促進	0	234,163
(2)上・下流コスト		(注)	(注)
(3)管理活動コスト	委員会活動、ISO14001の運用、環境報告書の発行	0	62,895
(4)研究開発コスト		(注)	(注)
(5)社会活動コスト		-	-
(6)環境損傷対応コスト		-	-
合計		110,564	609,551

(注)　上・下流コスト、研究開発コストは正確な把握が困難なため記載を省略しています

環境保全効果

効果の内容		環境保全効果を表す指標		
		指標の分類	指標の値（対前年増減）	
(1)事業エリア内コストに対応する効果	①事業活動に投入する資源に関する効果	エネルギー	21,606 GJ 減	
		CO_2	1,402 t 減	
		用水	26,257 ㎥ 減	
	②事業活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する効果	大気排出 水域排出	自主規制値を設定し、排出を管理した	
		廃棄物等の排出	総廃棄物量	634 t 減
			有効利用率	96.6%
			埋立廃棄物量	0 t
(2)上・下流コストに対応する効果	事業活動から産出する財・サービスに関する効果	-	(注)	
(3)その他の環境保全効果	輸送その他に関する効果	-	(注)	

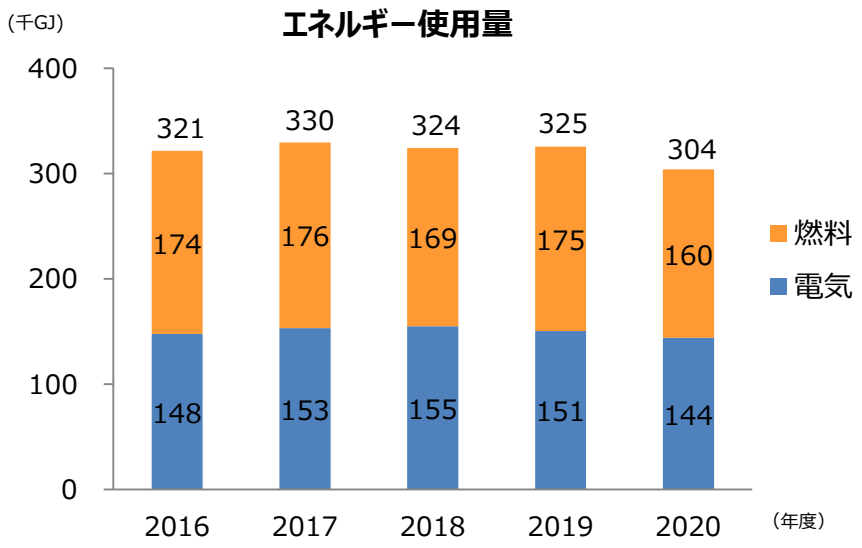
(注)　上・下流コストに対応する効果、その他の環境保全効果については、正確な把握が困難なため記載を省略しています

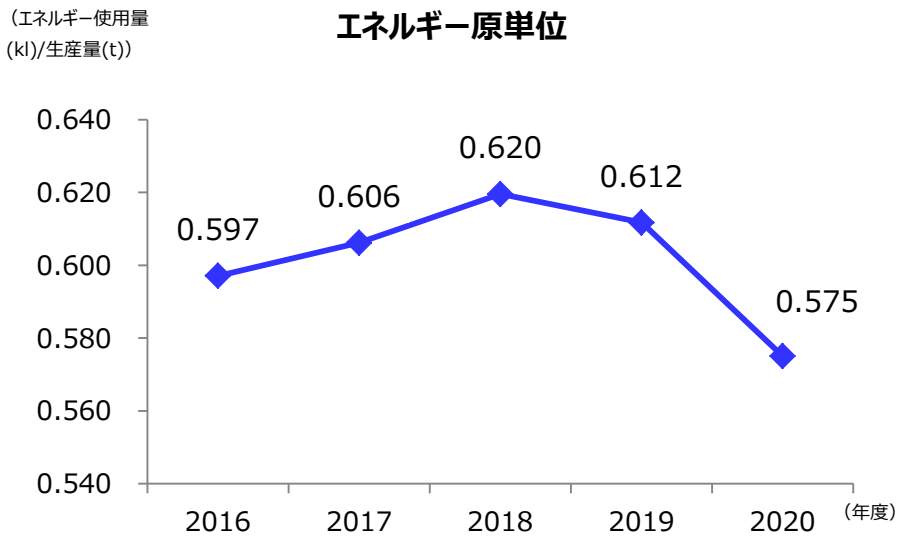
Copyright© T.HASEGAWA CO., LTD. All rights reserved

・エネルギー使用量

当社は省エネルギーを重要な課題として捉え、積極的に取り組んでいます。全社的な省エネルギー活動を実施するほか、生産部門の全ボイラーを効率の良い機種に更新するとともに、コージェネレーション設備、エネルギー監視システムを導入するなど省エネルギーを推進してきました。省エネ法の第一種エネルギー管理指定工場である深谷工場及び板倉工場では、エネルギー使用の合理化基準を定め、省エネルギーに努めています。

2020年度は製造工程の改良、蒸気の有効活用による蒸気ロスの削減、ボイラー運転の効率化を実施することで、エネルギー使用量を前期比21.6千GJ 削減し、エネルギー原単位は6.0%改善しました。これからも、効果的な施策を実施してエネルギー使用量の削減に努めます。





Copyright© T.HASEGAWA CO., LTD. All rights reserved

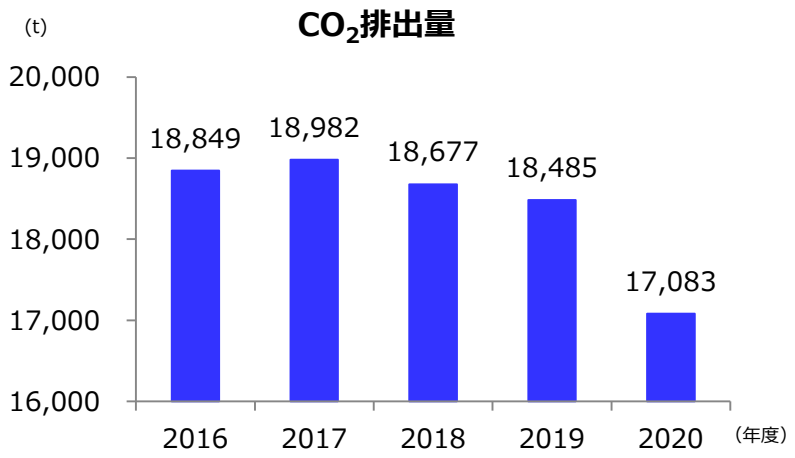
省エネ法定期報告書 / 事業者クラス分け評価制度にて6年連続"S"クラス評価を獲得

省エネ法定期報告書 / 事業者クラス分け評価制度とは、経済産業省が定期報告書を提出する全ての事業者をＳ・Ａ・Ｂ・Ｃの４段階にクラス分けし評価、同省のHPで公表する制度です。当社は2020年度報告/2019年度実績において、エネルギー原単位の過去５年の平均の変化が99.0%となり、省エネ法で定められているエネルギー原単位年平均１%以上の改善を達成することができました。当社は 2015 年に初めてＳクラスを獲得し、以降６年連続でＳクラス評価を継続しております。全社環境安全委員会が中心となり、省エネ施策を立案し、製造部門を中心にエネルギー効率のよい新型設備への切り替えや、エネルギー設備の運用状況の監視、改善を実施しています。

製造部門と研究部門のコラボレーションによる製造工程の改良等による省エネの実現等、全社一丸となってエネルギー対策のPDCAサイクルを回すことにより、このような高い評価を獲得することができました。今後もさらなる省エネ対策を実施してまいります。

・CO_2排出量

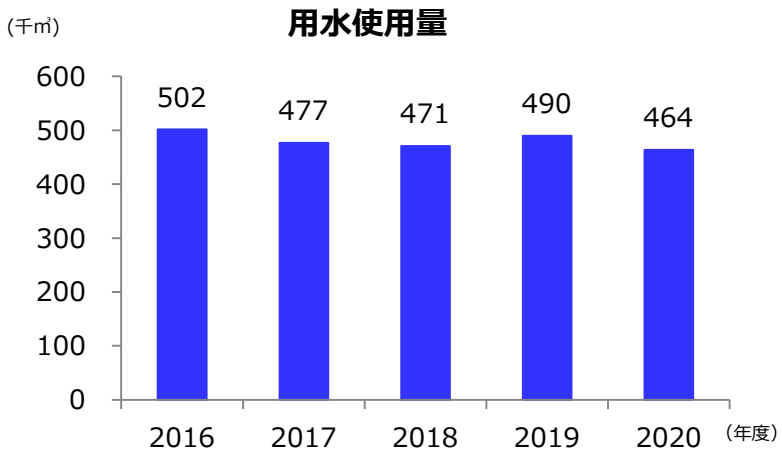
2020年度は、製造部門を中心に効率的なエネルギー使用により、エネルギー使用量を大幅に削減。その結果CO_2排出量を前期比7.6%削減しました。引き続き効果的な施策を実施し、中長期的にCO_2排出量の低減に努めていきます。



・用水使用量

当社は、用水を製造水以外にも冷却及び洗浄用として使用しています。これまで製造方法の改善や水循環設備の増設など用水使用の削減に努めてきました。2020年度は、用水使用量463,648㎥と前期比5.4%削減しました。今後も用水使用の削減に努めます。

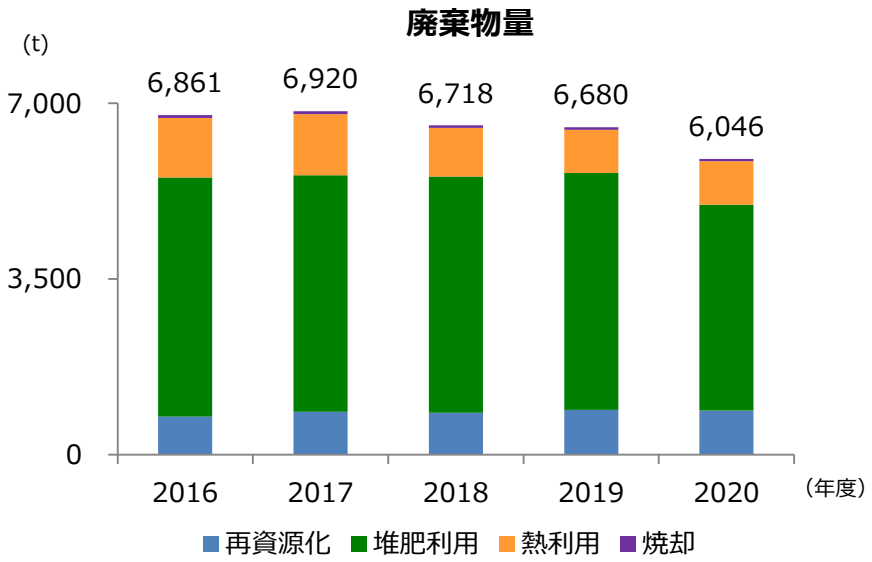
Copyright© T.HASEGAWA CO., LTD. All rights reserved



・廃棄物の有効利用

当社は多品種の香料製品を製造しており、その製造に伴い、様々な廃棄物が発生します。この廃棄物の有効利用、埋立廃棄物の削減に取り組むとともに、廃缶類、紙類、廃ガラス、廃油等の再資源化を積極的に推進しています。

2020年度は、廃棄物量は前年比9.5%減少、廃棄物の有効利用率は 96.6%でした。また埋立廃棄物ゼロを継続しています。



Copyright© T.HASEGAWA CO., LTD. All rights reserved

また、当社では、特に天然物抽出後の残渣（植物性残渣）が廃棄物として多量に発生します。この植物性残渣は、長野県南佐久郡小海町に長谷川香料（出資比率 45%）及び廃棄物運搬会社の出資堆肥製造会社である株式会社小海コンポースで醗酵堆肥化された後、高原野菜農家等で利用されています。

堆肥散布（長野県小海町）

野菜畑（長野県小海町）

・臭気対策

香料を製造する企業として、臭気対策（悪臭防止）には特別に注意を払っています。様々な脱臭技術を採用した多数の脱臭装置の稼働により、臭気の排出防止に努めています。また、臭気対策の一環として、構内及び周辺地域の環境パトロールを定期的に実施しています。

脱臭設備（板倉工場）

脱臭設備（総合研究所）

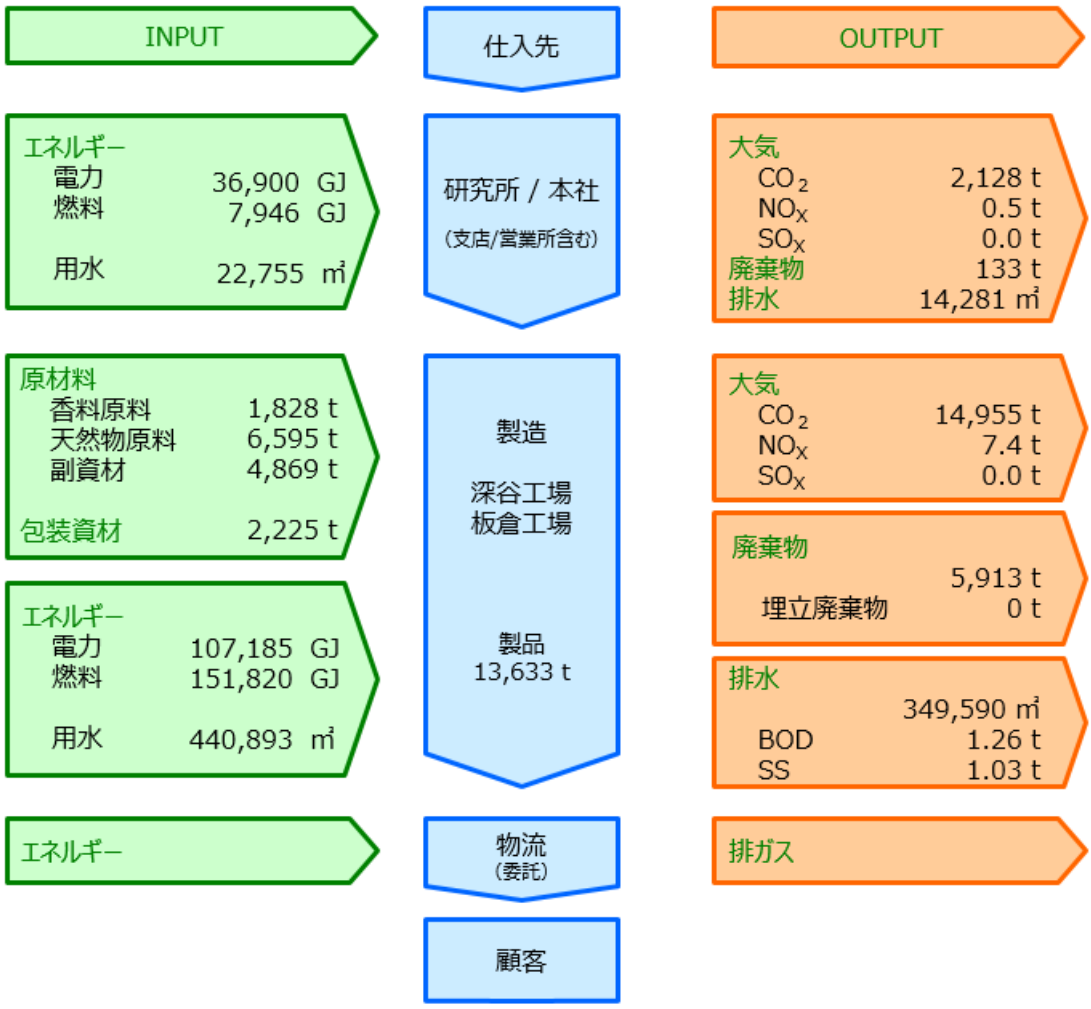
・排水処理

1969年、深谷工場に排水処理施設を設置して以来、活性汚泥法、加圧浮上法、嫌気性処理法、凝集沈殿法、膜濾過法など様々な排水浄化技術を採用した排水処理施設を増設し、排水処理の改善に努めてきました。水質汚濁防止法、県条例及び地域との協定で定められた排水規制値の遵守はもとより、さらに低濃度の自主規制値を設定して排水の浄化に努めています。

Copyright© T.HASEGAWA CO., LTD. All rights reserved

環境データライブラリー

(1)事業活動における環境への影響（2020 年度）



Copyright© T.HASEGAWA CO., LTD. All rights reserved

(2)環境目標と実績（2020 年度）

環境目的	2020年度目標	2020年度実績	中長期目標
1.環境管理体制の充実			
1)環境マネジメントシステムの継続的改善	環境保全活動の継続的運用、改善 ISO14001(認証取得部門)の継続運用、改善	長谷川香料全部門で実施 製造・研究部門でISO14001 の継続運用、改善	継続実施 継続実施
2)環境監査の実施	環境安全監査の実施 ISO14001 審査、内部環境監査の実施	環境安全監査を実施 ISO14001 認証取得部門で実施	継続実施 継続実施
3)環境安全教育の推進	各種教育の計画、実施 ISO14001 教育訓練の計画、実施	社内イントラネット教育、その他の教育を実施 ISO14001 認証取得部門で実施	継続実施 継続実施
4)環境管理の改善	環境報告書の発行、環境会計の実施	環境報告書2020の発行、環境会計の実施	環境報告書の継続的改善、環境会計の内容充実
2.省エネルギーの推進			
1)エネルギー使用の削減	エネルギー原単位 対前年度2.0% 削減	21.6千GJ減少(対前年度6.6%減) (生産量原単位6.0%改善)	継続実施
2)CO_2排出量の削減	CO_2 排出量 対前年度0.7% 削減（総量）	1,402 t 削減（対前年度7.6%減）	継続実施
3.省資源、廃棄物の有効利用			
1)省資源の推進	用水使用量 継続的改善 事務用紙使用量 継続的改善	用水使用量26,257㎥削減 （対前年度5.4%減)(原単位4.7%改善) 事務用紙使用量1,563kg減 （対前年度8.8%改善）	継続的改善 継続的改善
2)廃棄物の有効利用の促進	廃棄物有効利用率 継続的改善	廃棄物有効利用率96.6%(対前年度0.2%悪化）	継続実施
3)埋立処分量の削減	埋立処分量ゼロ	埋立処分量ゼロ 埋立ガラス廃棄物の有効利用化	埋立処分量ゼロ
4.環境排出の抑制			
1)大気汚染、水質汚染の防止	自主規制値による管理（工場）	自主規制値内で適正管理 排水処理施設の改修	継続的改善
2)臭気対策	脱臭設備の増設、適正管理 臭気パトロールの実施(工場、研究所)、臭気苦情ゼロ	適正運転、臭気苦情1件	継続的改善
3)化学物質管理	PRTR の実施（PRTR 法及び自主管理物質）	PRTR実施	継続実施
5.グリーン購入			
1)グリーン購入の推進	グリーン購入の推進	グリーン購入基本原則・ガイドラインによる運用	継続実施

Copyright© T.HASEGAWA CO., LTD. All rights reserved

(3)PRTR 法対象物質の排出/移動量データ（過去３年）

（単位：kg/年）

工場	政令番号	物質名	2017年度 (2017/4/1-2018/3/31)			2018年度 (2018/4/1-2019/3/31)			2019年度 (2019/4/1-2020/3/31)		
			取扱量	大気排出	移動量	取扱量	大気排出	移動量	取扱量	大気排出	移動量
深谷工場	12	アセトアルデヒド	3,528	0	0	4,460	0	0	3,782	0	0
	28	アリルアルコール	-	-	-	1,194	0	0	1,193	0	0
	204	ジフェニールエーテル	1,891	0	0	1,669	0	0	1,868	0	0
	207	2,6-ジ-ターシャリーブチル-4-クレゾール	4,097	0	0	4,994	0	0	3,849	0	0
	232	N,N-ジメチルホルムアミド	1,144	0	1,093	1,041	0	1,035	1,539	0	1,514
	300	トルエン	3,865	376	3,489	9,497	680	8,817	4,994	476	4,519
	392	n- ヘキサン	24,829	1,909	14,809	22,904	1,957	15,247	36,819	1,407	31,329
	399	ベンズアルデヒド	1,166	0	0	1,318	0	0	1,626	0	0
	436	アルファメチルスチレン	2,903	0	0	2,900	0	0	2,902	0	0
板倉工場	392	n- ヘキサン	1,280	1,254	0	1,204	1,198	0	-	-	-

注：PRTR 法対象物質の排出/移動量データの報告年度は、当社事業年度と期間が異なります。

Copyright© T.HASEGAWA CO., LTD. All rights reserved